研究成果

国営公園における利用者の事故情報の集計とその要因について

Aggregating Data of Park User Accidents in National Government Parks to Explore Factors

緒方　京一
Kyoichi OGATA

【要旨】

当財団が業務上で収集・蓄積した事故情報データベースにあるデータ1,074 件を対象として、月・年齢・時間・事故の種類・事故の要因の５分類毎に集計し、遊具、駐車場、サイクリングコースの場所別で集計し整理した。その結果、事故は人的要因（本人不注意）によるものが多いこと、事故の発生件数は公園利用者が多い時期・時間帯に件数が多くなる傾向があること、年齢別では小学校高学年以下に多く見られる傾向があること、場所別では遊具・駐車場・サイクリングコースの３施設で約４割を占めていることが明らかとなった。

【キーワード】

国営公園，公園利用者，安全管理，事故，点検

ICT 導入による公園利用情報の収集における現状と課題

Current Status and Issues of Collecting Park Use Data Using ICT

平松　玲治
Reiji HIRAMATSU

【要旨】

公園利用情報の収集方法である、アンケート調査、カウント調査、要望・苦情の受付を取り上げて、従来の収集及びICT の導入による収集の現状を示し、両者の相違点を比較した上で、利点、課題及びICT の導入の留意点について整理した。その結果、利点には電子データの活用が容易であり、人員の削減や時間短縮がはかられ、感染症対策となること、課題には適切な方法の選択、方法に合致する工夫、サイバーセキュリティの徹底、個人情報保護の配慮が必要であることがあげられた。利点と課題を踏まえた留意点としては、簡易な方法の選択、操作マニュアルの完備、担当者が最低限の専門知識を持つことが必要だと考えられる。

【キーワード】

ICT，都市公園，公園利用情報，アンケート調査，カウント調査

米国の身近な公園の整備促進に向けたTrust for Public Land の取り組み

Trust for Public Land’s Approach to 10-Minute Walk to a Park in the U.S.A.

嶺岸　さゆり
Sayuri MINEGISHI

【要旨】

米国の非営利団体Trust for Public Land が身近な公園の整備促進に向けて行っている先進的な取り組みについて、公園に関する情報提供と、身近な公園の整備を推進する10-Minute Walk キャンペーンの展開の点からとりまとめた。情報提供では、収集した客観的なデータの公開、100 大都市の公園整備状況を評価する指標と都市ランキングの公開、14,000 の市町村の公園に関わるデータの可視化と分析ツールの公開を行っており、10-Minute Walk キャンペーンでは、政策決定者である市長にこの取り組みへの関与を働きかけている。誰もが容易に公園の現状を把握できるようにしたことや、都市ランキングの発表で話題性を提供することなどが身近な公園への関心を高めるとともに、市長にこのキャンペーンに賛同させることで身近な公園の整備促進に寄与していると考えられる。

【キーワード】

身近な公園，10-Minute Walk，Trust for Public Land，ランキング，市長の関与

都市公園におけるペット利用の実態に関する調査

A Survey on the Current Situation and Issues of Pets in Urban Parks

石井　裕子
Yuko ISHII

【要旨】

国営公園及び地方公共団体の公園管理者やドッグランの利用者にアンケート調査を行い、その結果から都市公園の特に犬を主としたペット利用の現状や課題について把握した。利用者の回答からは、ドッグランの施設や運営に関する具体的なニーズを確認できたほか、ドッグランは犬にとって健康や社会性を向上させる施設であるだけでなく、飼い主にとって楽しみや癒しにつながる施設であることも示唆された。また、公園管理者の回答からは継続的なマナーアップ対策やペットの利用に関する新たなニーズへの対応の必要性など、管理運営上の課題が明らかになった。

【キーワード】

都市公園，利用実態，管理実態，アンケート，ペット，ドッグラン

コロナ禍における利用者の国営公園に対する意見の集計と考察

A Study on the Result of Visitors' Opinions in National Government Parks during the COVID-19 Pandemic

森崎　玲大
Reita MORISAKI

【要旨】

一般財団法人公園財団の管理する国営公園の利用者から寄せられた要望や不満等の意見（お客様の声）のうち、新型コロナウィルス（COVID-19）の流行が始まった2020 年４月から2022 年３月までの集計を行い、平常時である2010 年の集計結果と比較することによりコロナ禍の国営公園における管理運営の課題を考察した。集計の結果、2020-2021 年度における施設に対する意見では「植物・植栽全般」の「プラス評価」が減り「マイナス評価」は増えたこと、管理運営に対する意見では「植物管理・修景空間の質的水準」と「公園スタッフの接客サービス水準」の評価が下がり、「施設管理の質的水準」の評価が上がったことが明らかとなった。集計結果を考察することにより、コロナ禍の国営公園全般における管理運営の課題として評価の低い植物管理とスタッフの接遇の強化・改善、公園個別の課題として注目が集まる公園を代表する施設への重点的な管理が必要であることが示された。

【キーワード】

国営公園，新型コロナウイルス（COVID-19），お客様の声，公園管理，利用者分析

烏川渓谷緑地におけるカタクリ群落の生育環境調査

Growth Environment Survey Work of the Erythrorium japonicum in the Karasu-gawa Keikoku Ryokuchi

内田　利幸
Toshiyuki UCHIDA

【要旨】

長野県烏川渓谷緑地では、平成14 年４月の開園以来、公園内に自生するカタクリに関する生育調査と保全活動が、市民団体である「烏川渓谷緑地市民会議」において継続的に行われ、開花個体は増加傾向にあるなど維持管理の効果が調査活動により確認されている。これまでは市民団体の経験則をもとに保全活動や生育状況の記録が実施されていたが、維持管理業務のなかで継続していくためには、カタクリの生育に必要な環境条件等に関する定量的データの記録と蓄積、実施した保全作業の効果について学術的に検証し、保全手法としてとりまとめることが必要である。そこで、平成元年３月より、保全活動を行う市民団体、維持管理を担当する公園財団、学術的な検証を助言する信州大学の三者が協働した調査研究を実施することにより、当公園におけるカタクリ群落の保全手法を確立することを目的とする動植物調査を実施した。その結果、調査成果を活用した情報発信やイベント展開が可能なこと、維持管理指針を提案できることが明らかとなった。

【キーワード】

烏川渓谷緑地，カタクリ，市民活動，都市公園，付加価値向上，生態系，生物多様性

冬季イルミネーションから秋季ライトアップへの移行
～時代に沿ったイベントの組み立て～

Transition from Winter Illumination to Fall Lighting
~Assembling Events in Line with the Times~

藤　香　　峰岸　徹
Kaori FUJI Toru MINEGISHI

【要旨】
国営昭和記念公園では、冬季の利用促進策として長年イルミネーションを開催してきたが、時代の変遷とともにライバル施設の出現や、限られたコストの中での魅力維持の難しさ、安定した顧客確保など多くの課題が山積していた。そうした中で、2019 年の元号変更を機に、冬季イルミネーションから秋季ライトアップへの移行、そして公園の一部を有料化し、その収益金でライティング費用を賄う方向へ大きく舵を切った。開園から35 年以上経過した当園こそが持ち得る公園のポテンシャルを最大限に活かし、時代に沿ったスクラップ＆ビルドを行うことで、「収益性の低い賞味期限の切れたイベント」から「稼ぎながら成長し続けるイベント」に変身を遂げた行催事の事例紹介を行う。

【キーワード】
国営昭和記念公園，イルミネーション，ライトアップ，スクラップ＆ビルド，自主事業化

国営アルプスあづみの公園里山文化ゾーンの新たな魅力作り
造成工事後のビオトープの利活用について

Enhancing Attractiveness at Satoyama Zone (Cultivated Countryside) in Alps Azumino
National Government Park Utilization of Viotope after Improvement Work

椎名　春菜
Haruna SHIINA

【要旨】
国営アルプスあづみの公園の里山文化ゾーンの利用において、花畑や田んぼに関連したイベントは実施していたものの、豊富な生物資源を活かしきれていないという課題があった。公園周辺には希少な野生の動植物が生息しており、環境の整備によりこれらの動植物が園内に訪れる可能性が高い。このようなポテンシャルの高いゾーンに景観上問題のある湿地が存在していたが、環境改善のため人力での簡易な整備後に造成工事を実施した。水辺の生き物の生息に適した環境にしていくと共にイベント・団体利用に適した環境の整備を進めたことで、ビオトープの団体利用が増加した。生き物を呼び寄せ安定的な生息を可能にした環境は、生き物へ親しむ活動に関心の高い各種団体のニーズに合致し公園利用を促す効果があることを把握した。

【キーワード】
国営アルプスあづみの公園，ビオトープ，生き物，生物資源，イベント活用

安全巡回パトロールの取組みと効果

Effective Measures of the Safety Patrol in Sanuki Mannou National Government Park

鶴石　昭二
Shoji TSURUISHI

【要旨】
本発表は、国営讃岐まんのう公園の管理運営を行うまんのう公園管理センターが独自に取り組む、安全巡回パトロール（施設点検）の実施効果を確認することを目的に、パトロールで得られた点検結果の内容を分析し、安全性と快適性への分類および修繕箇所の優先度評価を行った。その結果、情報の共有化や多様な部署による参画が効果的であり、本パトロールが計画的な修繕運営やスタッフのスキルアップ“おもてなし力”の向上に資する内容であることがわかった。

【キーワード】
国営讃岐まんのう公園，施設点検，安全性，快適性，おもてなし力